

バナアツ離島 支援遅れ

【ポートビラ共同】大型サイクロンの襲撃から丸4日が経過したバナアツでは、復旧作業も始まった首都ポートビラと比べ、支援が遅れている離島では食料や水が尽きつつあり、医師も足りていないことが、支援助物資を届けるため現地入りした国際援助団体の調査で18日までに分かった。

した際、複数の村々で地面に「HELP（助けて）」の頭文字を示す「H」の巨大文字を確認、鏡を反射させて救援を訴える住民がいたことを明らかにした。AP通信が18日、伝えた。

当初、懸念されたようにインフラが脆弱な離島への打撃が大きいことが裏付けられた格好。ナツマン首相は17日（離島では）人口が多いタナ島などが最も打撃を受けている」と話した。

ポートビラの南約200キロで、人口約2万9千人のタナ島に17日、支援助物資を届けた国際援助団体の関係者は「ポートビラよりもひどい状況だ」と語った。屋根が飛んだ病院は医師が1人しかいなかった。

英BBC放送は、ある離

島では海水を飲まなければならぬ事態に追い込まれ、人体に危険だと報じた。

バナアツで救援活動を続

看護師を派遣 AMDA



出発前に関係者と打ち合わせをする山崎さん(右)
18日午前6時34分、JR岡山駅

大型サイクロンが直撃した南太平洋のバナアツで甚大な被害が出ているのを受け、国際医療ボランティア

した。詳しい被害状況や現地ニーズの収集を行い、必要な物資などを整えた上で被災地に入る。

AMDA（本部・岡山市北区伊福町）は18日、看護師の山崎希さん(42) 同市を同国東のフィジーに派遣

国連人道問題調整室（OCHA）が17日に明らかにしたバナアツの死者は11人で、避難所に入ったのは3

300人。AMDAによると、被災地では薬剤が足りず、医療関係者の疲労が目立ってきているという。

山崎さんは18日早朝、関西国際空港に向けてJR岡山駅を出発。マレーシア・クアラルンプールで調整員の大政朋子さん(42)と合流し、オーストラリア・シドニー経由で20日にフィジーに入る予定。その後、各国の支援状況を見極め、バナアツを含め、援助する国を決める。山崎さんは「詳しいことは分からないが、広範囲に影響を受けているだろう。準備を整え、必要な支援を届けたい」と話した。

（平田知也）